

読み書きに困難のある児童生徒への 機能代替アプローチによるICT活用 の理解啓発に関する研究



青森県総合学校教育センター
特別支援教育課
指導主事 森山 貴史
moriyama-takashi@m03.asn.ed.jp

I. 問題と目的

本県の状況

- 読み書きに困難のある児童生徒への教育的支援の必要性については、理解が広まってきている。
 - 読み書きに困難のある児童生徒への指導・支援に関する研修ニーズ
 - 通級による指導を利用する児童生徒数の増加
 - 読み書きの困難を主訴とする教育相談
- 一方、小・中学校の通常の学級における個別の教育支援計画作成率が低いことから、読み書きに困難のある児童生徒に対する合理的配慮の検討・提供等、組織的な支援が十分に行われていないケースが少なからず存在する可能性が推察される。

I. 問題と目的

代替手段としてのICT活用

- 読み書きに困難のある児童生徒が、その苦手な部分を補うために、紙と鉛筆の代わりにタブレットPCを使って学ぶ「機能代替アプローチ」を検討することの重要性が指摘されている(近藤,2016)。

➡ 課題：教師の意識変容(中邑,2015)

- 読み書きに困難のある児童生徒へのICT活用に関する研究が一部の事例研究と実践研究のみで数少ない(平林,2017)現状を踏まえると、先の機能代替アプローチによるICT活用に対する教師の意識の様相を明らかにする研究の蓄積も必要であると考えられる。

I. 問題と目的

目的

- 読み書きに困難のある児童生徒への「機能代替アプローチによるタブレットPC活用」に対して、県内小・中学校の教師が抱く課題意識について検討する。
- その課題意識を踏まえ、「機能代替アプローチによるタブレットPC活用」に関する理解啓発のためのコンテンツを作成する。

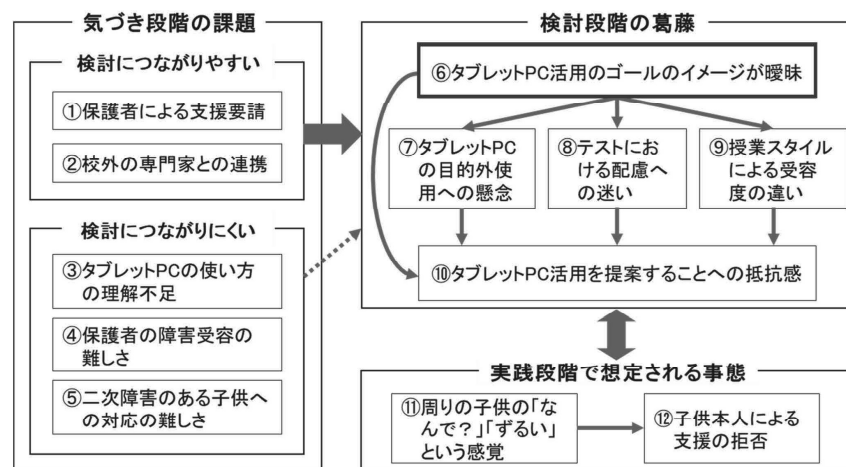
課題意識の検討

1. 調査期間:20XX年8月XX日
2. 調査対象:県内の教員10名(小学校教諭4人, 中学校教諭6人)で, 教職経験年数は6~20年(平均13.5年)であった。
3. 調査方法:「読み書きに困難のある児童生徒へのタブレットPC活用」をテーマとして, 半構造化面接法によるフォーカス・グループ・インタビューを2回実施した。1回目は, 中学校教諭6人, 2回目は小学校教諭4人のグループで実施した。
4. 面接時間:それぞれ60分程度であった。
5. 分析方法:インタビューガイドを作成し, インタビュー実施後, ICレコーダーで記録から逐語録を作成した。それをデータとして, 木下(2003)に基づく修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(以下, M-GTA)による分析を行った。

理解啓発コンテンツの作成

1. 課題意識に関する調査結果を踏まえ, 「機能代替アプローチによるタブレットPC活用」に関する理解啓発に必要な要素について, 複数の指導主事で協議しながら検討する。
2. 「1」で検討した要素を含むコンテンツを作成する。

小・中学校の教師が抱く「読み書きに困難のある児童生徒へのタブレットPC活用」に対する課題意識

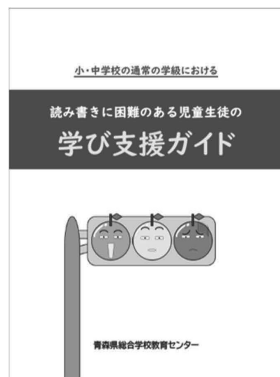


「読み書きに困難のある児童生徒へのタブレットPC活用」に対する課題意識

- 最も中心的な課題意識の概念は, 【タブレットPC活用のゴールのイメージが曖昧】であると考えられた。それが, 【タブレットPC活用を提案することへの抵抗感】につながってしまい, さらに想定される【周りの子供の「なんで?」「ずるい」という感覚】への対応の難しさがその抵抗感を助長してしまう状況に成り得ることが推察された。
- このように, 通常の学級において個人がICT機器を用いて学ぶ際に, 周りの児童生徒が不公平感をもたないようにするためには, 「教師・本人・クラスメイトの三者が『個人にはそれぞれに合った学び方があり, 自分に合った方法で学ぶ権利がある』ということを理解するための素地」(平林, 2017)の必要性が指摘されている。
- そのためには, まずは教師間でこのような学習保障の考え方を共通理解する必要があるが, ICT活用の知識・技能面の習得に主眼を置いた従来の研修ではその実現が難しい。
- したがって, 機能代替アプローチによるICT活用の理解啓発を進めていくためには, ICT活用マニュアルや指導事例集のような資料ではなく, 支援に対する考え方の転換を促すようなコンテンツが必要であると考えられた。

「読み書きに困難のある児童生徒の学び支援ガイド」の作成

読み書きに困難のある児童生徒への支援に対する考え方の転換を意図した資料として作成



- 第1章「読み書きの困難への支援に当たって」では、読み書きの困難への支援の必要性について解説。
- 第2章「支援の考え方とポイント」では、赴任して間もない若手教師の新米先生の葛藤を描いた物語を追いながら、読み書きに困難のある児童生徒への支援の考え方とポイントを解説。
- 第3章「具体的な学び支援」では、読み書きに困難のある児童生徒が自分に合った学び方で学ぶことができるよう、代替手段としてタブレット PC を活用した学び方を中心に紹介。

学び支援ガイドの成果と課題

• 成果

- 研修講座や校内研修等講師派遣事業での活用
- ネット公開による情報発信(2024年3月にWebアップ)
 - ダウンロード数: 2,809件(2024.10.11現在)
- 教育相談を行う際の指導主事間の共通理解の深まり

• 課題

- 「第3章 具体的な学び支援」におけるアセスメントのフローチャートの改善
 - 改善の視点: 通常の学級の担任による実態把握のしやすさ
- 学校現場における研究成果物の活用状況を把握し、支援内容の変化や児童生徒の変容等のアウトカムを検討